

准教授:河合 望

Nozomu Kawai

E-mail : nozomu.kawai@staff.kanazawa-u.ac.jp

【研究分野】考古学、文化遺産学、博物館学

【キーワード】エジプト考古学、文化遺産の保存活用



研究内容

【背景・目的】

古代エジプト新王国時代(前1550～1000年頃)は、古代エジプト文明の最盛期です。この時代に関する従来の研究は、当時の宗教の中心地であるテーベの西岸に造営された王墓や貴族の墓などの出土資料が中心となっていました。しかし、近年になって当時の行政の中心地であったメンフィスの墓地遺跡であるサッカラで同じ新王国時代の高官の墓が多数発見されるようになったことにより、新たな資料により新王国時代の研究を再検討する機運が高まってきました。さらに、サッカラ遺跡では19世紀から新王国時代の遺物が多く欧米の博物館・美術館に流出しており、それらの由来の墓の位置についても不明なままです。このような状況に鑑みて、古代エジプト新王国時代史の再構築を試みるために、新たにサッカラ遺跡における未知の新王国時代の墓地の所在を明らかにし、発掘調査によって当時の埋葬、文化、歴史を明らかにすることを目的とします。また、同時に発掘調査の対象となる文化遺産の保存と活用といった問題に取り組みます。本研究においては、従来の伝統的な考古学・古代史研究だけでなく、学際的な文理融合型の研究を駆使し、総合的な歴史科学研究と文化遺産保護のモデルを構築したいと考えています。

【概要】

本研究では、①調査を行う新しい遺跡の選定のための踏査、②遺跡の発掘調査、③出土遺物の考察・分析、④遺跡の保存修復と活用の4つの段階において自然科学的な研究を駆使していきます。既に①踏査においては、人工衛星画像解析、3次元地形測量、物理探査の成果を駆使して研究を行っています。これらの成果は地理情報システム(GIS)で管理しています。②の発掘調査においては、通常の測量の他に、3次元計測を積極的に導入し、古代の景観復原だけでなく、将来的な文化遺産の活用を見据えた調査を行います。③では、形質人類学、DNA研究、動物学、植物学、材料科学、古環境復元などの自然科学系の研究者と協働し、学際総合的な研究を進めます。④の遺跡の保存・修復では、保存科学、バーチャルリアリティ研究などの専門家と協働し、物理的な保存修復だけでなく、コンピューターを駆使した3D画像処理などによる活用方法にも取り組みます。また、これらの文理融合研究と同時並行に、従来知られている古代エジプト新王国時代の墓地の資料をデータ・ベース化し、総合的に再検討することで、新しい調査研究の成果を示していきます。

【研究の特徴・コンセプト・理念】

一従来の伝統的な考古学、古代史研究の方法だけではなく、自然科学の研究を積極的に融合し、総合的な歴史科学研究のモデルを構築します。

一研究の成果を文化遺産の保護や地域の振興など社会にも広く還元するためにヴァーチャルリアリティやデジタル・ヒューマニティーズの研究を推進します。

最近の論文発表等:

1. N. Kawai, "The New Kingdom Tomb Chapel of Isisnofret at Northwest Saqqara," Kondo, J. (ed.), *Quest for the Dream of the Pharaohs: Studies in Honour of Sakuji Yoshimura*, Cairo: Ministry of Antiquities, 2014, pp.69-90.
2. A. Fahmy, N. Kawai, and S. Yoshimura, "Archaeobotany of Two Middle Kingdom Cult Chambers at North Saqqara, Egypt," Stevens, C.J., Nixon, S., Murray, M.A., and Fuller, D.Q. (eds.), *The Archaeology of African Plant Use*, Institute of Archaeology, University College London Publication, Walnut Creek: Left Coast Press, 2014, pp. 141-149